

司会進行：日本青年会議所 建設部会 運営専務 吉村氏

開会挨拶：建設トップランナー倶楽部幹事 日本青年会議所建設部会部会長 金田健治氏

- ・フォーラムへの出席、理解、協力、指導、ご高配に感謝。
- ・東人本大震災のみならず、日本各地で台風、竜巻、豪雨災害等、自然災害に見舞われている。その中で、自身が被災しているにもかかわらず、自然災害に直ちに立ち向かうのが、地元建設業の担う役割となっており、たくさんの仲間を、誇りに思うとともに、敬意を表したい。
- ・景気の低迷は依然続いており、公共投資・民間需要の低迷を始め、法人税問題や労働問題など依然として、苦しい状況にある一方で、生産拠点の海外進出などの動きが更に加速している。このことが、産業の空洞化、優秀な人材の海外移転により、日本経済の力そのものが低下することを懸念する。
- ・建設業においても、不安定な労働条件や若年層の減少・職人の高齢化が進んでいる。人材は宝であり、若い力が入らないことには建設業の次代を担う人材の育成ができない状況にある。建設業は人の心に残るものを作る仕事である。その魅力をこどもたちに残すことが、我々の使命であり、人材を確保し、伝えていくことが、最重要課題と考える。

趣旨説明：建設トップランナー倶楽部代表幹事 慶応義塾大学特任教授 米田雅子氏

- ・全国からの参集に感謝。
- ・今年のテーマは、天災バブルと言われている東北の現状や課題、一方で、公共工事減少傾向にある東北以外の地域の状況等を踏まえ、厳しい経営環境にありながらも、地域建設業が地域で担っている役割として、地域の社会基盤を守りながら、地域を支え、農業・林業・介護などに奮闘している企業の姿を発表頂きます。また、副業化だけでなく、地域維持型入札のパイオニアの事例紹介や、海外進出の姿も発信していく。

来賓挨拶：国土交通省技官 佐藤直良氏

- ・異常気象、火山の活発化等世界的に多くなっている。
- ・震災発生後、真っ先に駆けつけた地域の建設業者、また、全国からご支援頂いた建設業者に感謝。
- ・このフォーラムを通じて、地域を守る「地域のホームドクター」としてご活躍頂きたく、また、地域の建設業の役割を再認識して頂きたい。

来賓挨拶：芝浦工業大学教授 谷口博昭氏（前 国土交通事務次官）

- ・地域力・現場力をいかに活かすかが、建設業に係わらず、今後とも重要である。

- ・ただし、いざという時に、地域での役割を果たすには、社会資本については地方整備局の常日頃の管理のもと、企業の体力・技術・技能者・機材等を維持し、常日頃から建設業が業として成り立っていくことが重要。備えあれば憂いなしということ。それが建設に携わるもののエゴでなく、日本経済社会にとってのいざというときに向けて必要不可欠なことであると考え。
- ・東日本第震災では、日本の体制の脆弱性があらわになった、産学官民連携での国土強じん化（強くしなやかな国土）が大きな課題。復元力・回復力があるということで、防災というカードだけでなく、減災というカードと組み合わせていくことが重要。

第1部 東北復旧の現場と今後の防災・減災

アドバイザー 人と国土研究所代表（元国土交通事務次官） 青山 俊樹
 西村あさひ法律事務所代表パートナー 松嶋 英機

内 容	「岩手県の復旧現場と課題」について
発表者	松田重機工業（株）松田真一 氏
アドバイ ザー コメント 要旨	<p>（青山氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなさんの努力にこころから感動を覚え復興は大変だと思う。感謝申し上げる。 ・みなさんのこころざしとともに、予算づけが必要と考えている。 ・一番大切なのはスピードだ。日本全体がかかえた問題でもあるが政治リーダーシップが大切だ。 <p>（松嶋氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急なときに民間の地元建設業の犠牲と努力により緊急事態を脱したにもかかわらず、行政は未だに基本的な計画も実施に移せていない。私は東日本大震災事業者再生支援機構の取締役をしているが、1件、建設業者の支援決定をした。行政が速やかに計画を実施しないと地域建設業が疲弊する状況だ。是非とも私どもに相談してほしい。 ・一般的に建設業者の再生は難しいが、東日本には仕事はあるのだから支援決定できると考えている。 ・政府にも早くやるよう叱咤激励していくつもりだ。
質疑応答	なし。

平成24年 建設トップランナーフォーラム記録表

内 容	「宮城県の復旧現場と課題」について
発表者	東北建設業青年会 前会長 (株)阿部和工務店社長 船山 克也
アドバイザークomen ト要旨	<p>(青山氏)</p> <p>・入札不調の問題などよくわかりました。平準化も勘案した発注計画が大事だと思う。手持工事がある会社はそちらに専念にし、他の会社はリーズナブルなそこをねらうといったことができないのかなとか、入札要件として試行費用を出して発注するといったことがあるかなとその辺のご意見も聞かせていただきたい。</p> <p>(船山氏)</p> <p>手持工事があっても、金額の大きさ、技術員の配置などを勘案し、効率のよい工事があると狙っていくのが現状だ。沿岸部の会社は平年の2倍の受注量になっていると思う。</p> <p>(松嶋氏)</p> <p>宮城には2回行った。震災発生直後は自衛隊等がはいったりするがやがて引き上げ、しばらくすると地元だけになる。地元の建設業者が生きながらえる対策をする必要がある。行政は資材や人件費が高騰していることは判っているはずなので速やかに対応する必要があると考える。</p> <p>(船山氏)</p> <p>震災は通常の状態ではないので、「復旧時に入札するのか」など緊急のときにどのように対応すればよいのか整理している。今後の緊急時の対応に少しでも役立つように資料を提供していきたいと考えている。</p>
質疑応答	なし。

平成24年 建設トップランナーフォーラム記録表

内 容	「福島県の復旧現場と課題」について
発表者	福島県建設業協会会長 南土建工業㈱ 社長 小野 利廣
アドバイ ザー コメント 要旨	<p>(青山氏) 除染作業の建設業者に対し従業員に対し説明やケアはどうしているのか。</p> <p>(小野氏) 市町村において除染組合を作って対応している。福島県においては重点的な仕事として取り組んでいる。</p> <p>(松嶋氏) 原子力は大変に長期間かかると思う。東京電力の救済スキームは水俣病の救済スキームとほとんど同じ。チッソを損害賠償の主体として行政がそれを援助するという形になっているが裁判がはじまって40年経つがまだ問題が起きてので、行政の速やかな対応が必要と考える。</p>
質疑応答	<p>(代表理事 和田) 米田先生とともに代表理事をしている。私は耐震工学をやっているが津波の危険性に関し指摘ができなかった。がんばってください。</p>

平成24年 建設トップランナーフォーラム記録表

内 容	東北の復旧・復興の現状と方向
発表者	国土交通省東北地方整備局企画部長 森 吉尚
アドバイザー コメント 要旨	<p>(青山氏) 宮城県橋本土木部長からコメントいただきたい。</p> <p>(宮城県橋本土木部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の皆様、海外も含め、多大なるご支援ありがとうございます。 ・宮城県では昨年10月宮城県震災復興計画を策定した。12兆8千億円です。 ・災害の人的損失を含めて全国の被害の6割は宮城であった。 ・計画の柱は災害に強いまちづくりであり、まさに土木部の仕事で、土木部では社会資本再生復興計画を策定した。3ヵ年を1兆円と投入する。地元の建設業の多大なるご支援でなんとかやっている日々である。 ・復興だよりを資料として配布している。数十年に一度の災害に対応するため防潮堤などの海岸の整備を行う。道路なども含めた多重防御により安全なところに町を作り、集落の高台移転、区画整理、復興住宅の建設も進めている。これからものすごい仕事量になる。ゼネコン、地域の建設業が一体になって一括してやる方法を国で考えてもらった。 ・最大の関心は復興予算をどう確保するかである。被災3県、仙台市も含め要望している。 ・建設業者からは予定価格を上げてくれと要望もある。設計変更にも随時対応している。資材の確保は25年度がピークと考えており全国から支援が必要である。技術者の問題もある。復興JVは24件できた。 ・最も懸念しているのは風化の問題である。復興はまだまだです。 ・28都道府県から支援をいただいている。まだまだ時間はかかるが更なるご支援をお願いしたい。
質疑応答	<p>(和田)</p> <p>各県の建設業者の話、国交者、宮城県の報告いただいたが、大変ではあるが向いている報告は同じなので早く安全な良い町ができればよいと思う。建築学会としても応援していきたい。</p> <p>(米田)</p> <p>橋本部長ありがとうございます。地元の建設業の皆さん、東北地方整備局、自治体心をひとつにしてがんばってください。建設トップランナー倶楽部としても今後とも支援していきます。</p>

平成24年 建設トップランナーフォーラム記録表

内 容	巨大地震に対する防災・減災対策
発表者	内閣府参事官 藤山秀章
アドバイザー コメント 要旨	<p>(青山氏) どうすればよいのか真剣に考え続けることが一番大事と思う。震災から一年経っただけで国民の関心が薄れている感じがしているが？</p> <p>(藤山氏) 先週の石巻の避難訓練の参加率12%だった。 防災教育をしっかりとすることだと考えている。 あれだけの津波は何年に1回と聞かれるが、こういうものが起きるかもしれないという想定議論はあるが何年に1回とかの確立の議論は出てこない。どういうものが来るか判らないので、日本にいるかぎりゆれたら逃げると言うことで、全国の小中学校、役場での教育が大事なので、そのために教育者を大学で育てるなど能動的な対応が必要と考えている。</p> <p>(松嶋氏) 建設業は危機管理産業だという話があったがいつも必要なわけではない。公共的なものであるのか予算であるのか指導とか何かあるのか？</p> <p>(藤山氏) 国交省の出先では、維持管理で震度4がでたら出動するといった契約を結んでいる。出動回数で精算という方法なので、実績がなかったら無しとなっているので、そここのところの管理と維持、入札の視点が必要と思う。 その他、仕事が減ってきているなかで、危機管理に対応するため、基礎的な仕事の絶対量があるはずで、地域にどの程度の仕事が必要であるのかを体的に説明するための論理構築が必要と思う。</p>
質疑応答	<p>(鹿児島の建設業者) 鹿児島から来ている。 噴火の対策は、内閣府にあるのか。</p> <p>(藤山氏) 内閣府の仕事で、起きたときにどういう準備が必要かということ国、県が何をやるかという火山単位で協議会をつくる仕組みを作っている。</p> <p>(フォーラム実行委員長 草刈) 大阪から来ている。海岸保存施設、多重防護施設が必要と聞いているが、本当にこれから実現していくものなのか。</p> <p>(藤山氏)</p>

予算に関しては担当官庁が要求するものであるが現在の日本の経済状況を見るとドラスティックに対応できる状況にないと思う。すぎにはできないが地道にやっていくということだろう。とにかく逃げるという対策も折込みながら対策することになると思う。

ハードについては私からは答えづらいことではある。

(青山氏)

ビルに入ればなんとかなるので事前の準備が大切です。

(建設業者)

国の指針のなかで災害豪雨にしても従業員をかかえて、待機しても国・県から賃金をいただけないということがある。是非検討いただけないか。

(青山氏)

藤山氏は応えることができないので意見があったことを伝えておく。

3-4 第7回建設トップランナーフォーラム記録表

記録者 福島県 脇坂昌義

第Ⅱ部 地域再生めざし復業に挑戦するトップランナー

アドバイザー 林野庁林政部長 沼田
農林水産省大臣官房政策課長 大澤 誠

内 容	林建協働による森林整備の推進
発表者	たかやま林業・建設業協同組合 岐阜県 長瀬雅彦
アドバイザー コメント 要旨	<p>林野庁 沼田</p> <p>素晴らし取組だと思う。スライドの中にでてきましたけれど、森林林業白書にとりあげさせていただいたところでもあります。私どもとしても森林整備・林業というものは、なかなか入りづらい。森林組合の方が長年、携わってきたところが多いわけですが、私どもとしても、外部からいろんな方々が新規参入していただき、従来の森林組合関係者が刺激を頂いているのは非常にありがたいと思っています。</p> <p>参入にあたっては、いろんな勉強をしていただいているので、従来の方々の刺激にもなっている。</p> <p>特に土木関係の会社から入ってくると、たとえば、安全管理だとか、リスクマネジメントとか、本来はやらなければならないことですが、どちらかというとならぬ林業をやっていた方は、意識がそんなになかったところがありますので、そういった点ではありがたい。</p> <p>私どもとしても支援できることは支援していきたい。非常に苦労されているかと思いますが、林業の事業は公共事業の範疇に入っていますけれども、全額国や地方公共団体が出すわけではなく、所有者負担がある。そういった意味で、森林所有者の理解を得ながらやっていかなければならないし、一回の仕事が良ければ良いというのだけでは終わらない。仕事の成果を示して、周りに見てもらって、また次の仕事につなげることが大事だと思う。そこまで配慮して取り組んでいる、大変本質を得た取り組みではないかと思っています。</p> <p>最後に元気な企業といいますか、活力ある企業にこういった取り組みをしていただいていることに対して、私どもとしても感謝しているところでありますし、またお願いがありますのは、岐阜、高山というところではありますが、これを全国的にチェーン展開というか広めていただければ、またこういった動きに賛同される方を全国でも引っ張りあげていただければありがたい。</p>

	<p>農林水産省 大沢</p> <p>私は主に農業が中心ですが、林野庁には約20年前位に森林組合課に6カ月だけおりましたけれども、その時と比べると時代が違うくらいにいろんなことをやられているなと思いました。</p> <p>1点だけ質問させていただきたいのですが、林業機械をすぐ買ってしまおうのではなくて、これから理念を持って、経営を考えていかなければいけないというようなお話を伺い、まさにその通りだと思うのですが、現在その機械の関係で、現在どんなような機械設備を持っておられて、今後、作業道を整備されると将来展望が出てくると思うのですけれど、どういう理念で、どういう機械を使っていこうとか、将来の考え方があれば教えていただきたい。</p> <p>たかやま林業・建設業協同組合 長瀬</p> <p>我々は建設業者なので、従来から建設業のバックホウは持っている。そういうものを活用するということが、林業の中では木を使う方ですね。当然倒材するものが必要かと。ただ高山も急峻な場所なので手が届く範囲ではないので、民地が必要となったり、タワーヤードが必要となったりするのかなと思います。</p> <p>理念としては、道も山も壊さない、生涯にわたって、自分たちがいる間ではなく、自分たちの子、孫まで引き継いでいける山を維持するためにやっていきたい。建設業者ですが山のことだけで、思っていていいのかと思うくらいでやっていますけれども、なるべく少ないハードでソフトをそなわせてやっていける林業になれば良いなと思います。</p>
<p>質疑応答</p>	<p>特になし</p>

平成24年 建設トップランナーフォーラム記録表

記録者 新潟県 荻原

内 容	「隠岐スモールビジネス協議会」について
発表者	(株) 吉崎工務店 社長 吉崎博章 氏
アドバイ ザー コメント 要旨	<p>(大沢氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産省全体で、6次産業化を進めているが、ご指摘のとおり生産者の方々が加工とか流通・販売をやることは大変なこと。 ・ 吉崎さんのように工務店の方々が、紀ノ国屋と取引する事は大変なことだろうと思っているので、まず、チャレンジをしてみると、そのためのサポートは、アドバイスなり、資金面で援助を行うことは一生懸命やっていきたいと思う。 ・ 地方の方にお金がいよいよ流れていくようにするためには、単に生産するだけでなく、販売していく、加工していくことが非常に大事だと思う。 ・ 日本全体の農業の生産高は8兆円程度、食品産業の加工・流通・販売を全部合わせると90兆円くらいになる。80兆円分は生産者ではなくて色々な方がその販売等を担っている訳であるので、少しでも地方の方にお金が行くことが非常に大事であると思っている。 ・ こちらの事例の場合は、県、市町村との連携がうまくできているのかと思う。 ・ どうやって安定供給のために量を増やしていくか、小さい生産者の方をどんな形で巻き込んでいくか、特に高齢者の方々が生産者であるので、ここをどうやって巻き込んでいくかが課題である。私どもとしてもサポートしていきたい。 <p>(沼田氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非常に熱心に取り組まれていると思う。 ・ 評価されるに至るまで苦勞があったと感じているが、「ここが肝心な所」というのがあれば、会場の皆様にも披露していただきたい。 <p>→ (吉崎氏の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もともと素人なので、指導者の意見をしっかりと聞いてやっている。 ・ とまと、パプリカ、ピーマンの生産も始めて、販売しようとしたら、折角、生しいたけが評価されているのに、並のとまと等を出しても、しいたけのブ

	<p>ランドに傷がつくとの意見もあり、色々指導いただいている。</p> <p>(沼田氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 離島という条件が悪い中で頑張っておられるので、今後も頑張ってほしい。
<p>質疑応答</p>	<p>○会場からの質問</p> <p>①この事業に従事している人数は？</p> <p>→ (吉崎氏の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11名が従事 <p>②従業員の方は、建設と農業はどうやって役割分担しているのか。建設の閑散期に農業をやっているのか。？</p> <p>→ (吉崎氏の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全く別の部門がやっている。 ・ きのこ栽培は年間を通してやっている。 <p>③建設業がメインであると思うが、この事業を行うにあたり、どのように従業員の理解を得て行かれたのか？</p> <p>→ (吉崎氏の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あまり理解がないかも知れない。(笑い)

第7回建設トップランナーフォーラム記録表

記録者 山形県 羽角 享

内 容	花卉とアスパラガスの農園経営
発表者	幌村建設株式会社 幌村 司 氏
アドバイ ザー コメント 要旨	<p>(大澤氏) アスパラガスの方が本業と思えるほど大規模である。また、大学研究機関と交流するなど感心する点がある。 現在は生鮮のようだが、加工にも力入れていくのも良いと思う。</p>
質疑応答	<p>Q 1 (大澤氏) 地域の方々との関係についてどのように工夫されているか。 A 1 (幌村社長) 雇用面で地元の主婦の皆さんを雇っている。地域貢献としてプラスになっていると思っている。</p> <p>Q 2 (大澤氏) 農協出荷の規格もあると思うが、アスパラガス (のサイズ) が大きくなったのは意識的なのか、結果的なのか教えてほしい。 A 2 (幌村社長) ねらったものである。北大と研究して手法を練ったもの。</p> <p>Q 3 (大澤氏) (ハウス栽培する上で) 市場価格について石油高騰の影響はあるか。 A 3 (幌村社長) 苦労している。なんとかやりくりしている。</p> <p>Q 4 (沼田氏) 何種類もある野菜の中からなぜアスパラガスを選んだのか。 A 4 (幌村社長) 社長の思いつき。当初から (アスパラガス) 一本で行くこととした。</p> <p>Q 5 (沼田氏) 雪という自然エネルギーでコスト工夫してるが、何か (知恵) あったの</p>

か。

A 5 (幌村社長)

北大の“越冬”の研究があり生かした。

第7回建設トップランナーフォーラム記録表

記録者 山梨県 遠藤 正記
 高知県 川谷 昌司
 岐阜県 青木 伸泰
 同 高木 庸光

分野名	第Ⅲ部 新しい建設業に挑戦する トップランナー		会場	建築会館ホール	
司会		アドバイザー	環境省水・大気環境 局長 鷺坂長美 氏 国土交通省土地・建 設産業局総務課長 谷脇 暁 氏	書記	山梨県 岐阜県 高知県
内容	事例発表 ①美保テクノス(株)社長 野津一成 (鳥取県) 「介護・医療への事業展開」 ②多治見建設業協会副理事長 松嶋祥久 (岐阜県) 「日本一暑い多治見から遮熱舗装で海外挑戦」 ③宮下地区建設業協同組合代表理事 佐久間源一郎 (福島県) 「福島県における中山間地域等維持補修業務モデル事業」				
アドバイザー コメント 要旨等	①美保テクノス社長 野津一成氏 (鳥取県) 「介護・医療への事業展開」 [鷺坂氏] 聞いた感想としては、自社で介護事業をやるだけでなく、コンサルタント業や省エネ診断にも進出されていることが特徴。ソフト面に力を入れたきっかけを伺いたい。 [答] 事業展開については、補助金等国の施策があったから始めました。ニュースやホームページなどでその時々の施策をよく勉強して、事業展開をしています。 [谷脇氏] 4月まで(本省の)建設業課長の職に就いており、国としては、いろいろな新分野進出の施策を行っていますが、その支援施策の原点である地域の雇用、本業への還元を実現しているのが御社であり、研究対象とさせていただいておりました。 質問ですが、異業種に参入したり、事業拡大したりするとタイミングによってはうまくいったり、失敗したりすると思うが、タイミングの見分け方があれば教えて欲しい。 [答] 一つには国土交通省の方針に沿って事業展開しています。二つめには、建				

	<p>設業は人材派遣に近い産業で、ニッチだとか隙間をみつけて事業展開しています。ただし、あくまで本業は建設業であり、職人不足といわれるなか、私の会社ではなんでも直営でできるよう気をつけています。売上は少ないですが、建設業、介護、コンサル等で500人位抱えています。</p>
<p>アドバイザリーコメント 要旨等</p>	<p>②多治見建設業協会 副理事長 松嶋祥久（岐阜県） 「日本一暑い多治見から遮熱舗装で海外挑戦」</p> <p>[鷺坂氏] ヒートアイランド対策は、熱中症や節電のため重要であるが、局所的な取り組みでは難しい気がします。環境省においても、過去にクールアイランド構想という事業を新宿御苑において実施していました。その時の経験から、一度冷却した空気を循環させることにより周囲も冷やし、ひとつの効果を二重、三重に利用して欲しいです。 このような取り組みを多治見発で面的に拡げていくとよいと思いますが、多治見発の取組みには、どういったものがありますか。</p> <p>[答] 岐阜県と多治見市が試験施工として、本工法を取り入れてくれていたが、多治見砂防事務所でも採用していただけることになりました。また、多治見市に進出しているトヨタ自動車の工場や東京のデベロッパーにも売り込む予定です。マレーシアにおいては、9月にボルネオ島のクタキナバル市に売り込みに行く予定です。</p> <p>[谷脇氏] 米田先生の御尽力により実現した元気回復事業を、このように活用していただき感謝する。地域の特産品を生かしながら、社会的ニーズにあわせ、建設業協会や商工会を取り込み活動されていること、また、海外展開をされているのは想定外であったが、是非、儲かるようにつなげていただきたい。今後、工事の施工の仕事まで引き受けられそうですか。</p> <p>[答] 同じ地元ではあるもののタイルメーカーと、業態として連携することはこれまでなかったが、こうした機会に連携が一気に深まり非常に感謝している。海外に事務所を設置することは難しいため、現在は、大学に事務所を置いて、学術的に売っていこうと思っている。</p> <p>[小島氏（会場出席者）] 私は、多治見市出身であるが、現在東京でタイルの販売をしている。色合いが合わなくて使えないタイルが年間2万トンも発生しているとは知らなかった。発展途上国では、色合いを気にしないこともあるので、それを販売し</p>

	<p>ていくことも考えてはどうか。</p> <p>[答]</p> <p>パテント料とか、本来の製品価格が下がるとか、色々事情はあると思うが、メーカーに話してみる。</p>
<p>アドバイ ザー コメント 要旨等</p>	<p>③宮下地区建設業協同組合代表理事 佐久間源一郎（福島県） 「福島県における中山間地域等維持補修業務モデル事業」</p> <p>[鷺坂氏]</p> <p>公共事業であると必ず入札という手続きが生じ、公募型プロポーザル方式とあるが、県に対してなにか働きかけをした結果ですか。</p> <p>[答]</p> <p>いいえ、公共事業では透明性、公平性の確保が求められることもあり、発注者側で考えられた方法です。</p> <p>[谷脇氏]</p> <p>宮下地区の取り組みは、私にとって思い入れがある事業で、地域JVはこれを元に作成しました。この10年の間で、建設業者はあまり減っていないといわれていますが、従業員30人以上の会社は半減しています。共同で仕事をしてもらうことが地域の持続性にとって重要です。</p> <p>地域維持型の発注がうまくいくかどうかは2つ課題があり、ひとつは行政との関係で、もうひとつは地域の建設業者との関係だと思います。</p> <p>今回、始めるに当たって地域の業者間での話はどうだったのか教えて欲しい。</p> <p>[答]</p> <p>もともと、除雪も効率がよい箇所を施工していた業者は心配していたが、住民サービスを重視することにより、住民から建設業を見直してもらうことが重要であると考え、当時自分が建設業協会の会長だったこともあり、みんなを口説きまわった経緯がある。2社が破綻したときもみんなでカバーしあって乗り越えました。</p> <p>ただ、維持管理業務だけでは食べていけないので、現在県に対して、500万円以下の維持補修工事については、地域JVで共同受注できるよう要望しているところです。</p>

パネルディスカッション「国土を守る地域建設業の挑戦」

H24,7,12

米田コーディネーター

- ・どうやって地域建設業を再生したらよいかをディスカッションしたい。

大石 国土技術研究センター理事長

- ・東日本大震災で何が欠けていたか。それは時間設定が欠けていた。通常時の進め方であった。ガレキ処理も土地所有者の承諾をとっているなど、非常時の対応をしていないことが問題。迅速さが欠けていた。道路など長期計画はある。プランはあるがプログラムがない。いつまでに実現するか時間設定がない。

和田 日本建築学会会長

- ・日本海側の道路の整備が遅れている。日本を丈夫にすることが必要。

谷村 全国建設業協会広報戦略検討会座長

- ・2010年の口蹄疫について建設業が対処していたことが知られていない。「コンクリートから人へ」が支持された。公共事業への誤解、先入観がある。福島原発についても建設業者が対処していることが知られていない。これまで業界として情報発信をしてこなかった。各地の活動を全国に流すことにしている。

深松 仙台建設業協会副会長

- ・東日本大震災の復旧復興については、課題が山積である。たとえば防潮堤について、地盤が動いたため測量からやり直さなければいけなくなった。建設資材も、生コンが足りない、骨材がなくなった、砂も足りない。県外から船で運ぶしかないが、価格が2～3倍になる。さらに住民の同意が得られず復興が進まない。災害工事の金額が合わない。県・市は単価の見直しをしない。

大石パネラー

- ・時間軸を入れた計画がない。建設業の供給能力が下回っている。

金田 日本青年会議所 建設部会長

- ・被災地に人材や設備を送り込むことを考えているが、宿がないことや、被災地に行った場合、地元の工事に支障をきたすなどによりなかなか行くことができない。

和田パネラー

- ・国を丈夫にするのが大前提。地方の建設業がやっていける仕組みが必要。

谷村パネラー

- ・長崎もこれまで災害がいろいろあった。資材の取り合いもあった。防災協定を結んでいるが、東北大震災のような広域災害では対応しきれない。他からの応援をする仕組みが考えられていない。全国的な防災協定が必要ではないか。各省庁の話し合いが必要ではないか。

米田コーディネーター

- ・そのために現場で戦っている人たちが来ている。
非常時を想定していないことは不思議である。

大石パネラー

- ・公共事業費の推移をみると、1995年の阪神淡路地震以降、日本だけが0.45倍になっている。ドイツは横ばい、アメリカは2倍、イギリス・カナダは3倍になっている。
これだけ減少すれば供給能力を減らすしかない。世界で初めてのとんでもない社会実験である。

深松パネラー

- ・東北大震災から3か月で通常時に戻ってしまった。何も変わっていない。平成24年10月から一斉に発注が出てくる。繰り越しが問題である。財務省の会計法の問題であり、政治家が対応すべきである。行政が壊滅して都市計画も作れない。インフレスライドの書類を作る手間が大変。マンパワーが足りない。非常時の対応が必要である。

米田コーディネーター

- ・非常時モードを作る必要がある。高台移転についても法的な制約が多い。

谷村パネラー

- ・建設業関係の業界紙だけでなく、一般紙の記者と意見交換をする必要がある。

金田パネラー

- ・ネットでの広報活動も必要である。

米田コーディネーター

- ・このフォーラムのような活動を今後もやっていきたい。
地域建設業が国土を守るためには何をすべきか。

深松パネラー

- ・津波がくるという実感がまだない。対策をとっていない。
災害対策を進めるためには建設業協会という組織が不可欠である。
行政の防災会義に建設業が入っていないのは問題。

米田コーディネーター

- ・非常時のプログラムが必要である。

大石パネラー

- ・やらなければいけないことははっきりしているが、お金がないという理由でやらない。
建設国債は発行できる。今後も使える財産である。安全に暮らせる国土を残すべきである。

金田パネラー

- ・阪神淡路大震災のあとの復興時には建設業はヒーローだったが、それが終わると悪役になった。大阪の災害マップもできていない。

米田コーディネーター

- ・防災会議に建設業などの現場の声を取り込むべきである。防災・減災に建設業が関わるべきである。

深松パネラー

- ・被災地では人が足りない。東南海大地震が起きたら全く対応できない。今、職人を育てるべきである。

和田パネラー

- ・おきるかもしれないこと想像力が欠けている。
フランスは地震国ではないにも関わらず、原発を免震構造にしている。
研究者に足りないものがあつた。

(会場から 小野 福島建設業協会会長)

- ・原発については、地元も危機意識がなかった。

(会場から 宮城県土木部長)

- ・復興に支障をきたしている制度については、国に要望をしている。
教訓は今後のために残していきたい。

米田コーディネーター

- ・復興の構想は出ているが、現場を知ることをしてない。現場の声を聞くべきである。

金田パネラー

- ・次世代を担う人材育成をするべき。副業をやりながら本業を維持している状態である。

深松パネラー

- ・東北大震災で両親を亡くした子供が130人、片親を亡くした子供は1000人以上いる。この子供を育てていくのは社会の責任である。

谷村パネラー

- ・自衛隊に負けるなど思っている。建設村から出て話をしなければいけない。一般紙に話をすべきである。

和田パネラー

- ・本来、日本人は建設業を認めている。自信を持って仕事をするべき。

大石パネラー

- ・日本のどこが土建国家なのか。東京にインフラを集中させてよいのか。道路などのインフラを整備して国土を有効に使うべきである。

米田コーディネーター

- ・本日は長時間にわたりありがとうございました。